

報告書のとりまとめに向けて（案）

本事業の報告書については、教育委員会・学校関係者を読者として想定し、「同様のモデルを実施したい・実施できる」と思っただけのよう、とりまとめる。

このため、以下の項目について、平成30年2月18日までにプロジェクト実施団体から報告を受け、これをもとに同年3月末までに報告書を編集・作成することとしたい。

【項目（案）】

（モデル名称は報告書タイトルに記載）

1. モデルの概要

1.1 モデルの全体概要

■モデルの意義・目指そうとしていることや、特徴（特異性、利点）

■なぜそのモデルを設計・採用するに至ったか

等について、これまでの事業者様の個々の成り立ちや独自の活動で得た強み・特長や、プログラミング教育に関する現状に対する課題意識等の観点からとりまとめる

1.2 実施体制

実施体制図、実証校、教育委員会とのどのように連携したのか、調整の方法、協議された内容等についてまとめる。

その他、実証モデルの設計、実施にあたって連携した外部団体（メンターの母集団等）が存在する場合はそれらの母集団の概要についてもまとめる。

1.3 実施スケジュール

2. メンターの育成

2.1 育成メンター概要

■メンターの属性、なぜその属性なのか、母集団がいればなぜその母集団を選択したのか

■育成人数

2.2 メンターの募集

2.3 育成研修

■研修プログラムの概要（実施形態、研修にかけた時間、習熟具合をはかる仕組み・工夫等）

■研修教材（工夫した点、実際に使ってみての教育効果等について）

3. 実証講座の実施

3.1 講座の概要

■講座の実施日程、会場

■講座各回の内容、ねらい

■参加児童の学年、選出または募集方法、人数、講座進行担当者の属性、各回の参加メンター数等を図表にまとめる

3.2 実施の様子

現場で起こったエピソード等からの気づきや、それをきっかけとした改善内容等についてまとめる

3.3 メディア掲載

3.4 参加者の声

「児童・生徒」「メンター」「実証校の先生・保護者」「実証校の校長先生・教育委員会等（可能であれば）」のそれぞれの感想や意見について、実施したアンケートのFAやヒアリングからとりまとめる

4. アンケート結果

「児童・生徒」と「メンター」対象のアンケートの一部について、回答のグラフ化と簡単な分析を行う。現状とりまとめ依頼を想定している質問項目は以下の通り。

■児童・生徒：

- ・プログラミングの認知・経験の有無
- ・講座を受けた感想
- ・教材の難易度
- ・課題の達成度
- ・困難に遭遇したときの対処方法
- ・今後のプログラミング継続意向

■メンター

- ・(講座実施前) 実施に当たって不安なこと
- ・(講座実施後) 当初のイメージと比べてうまくできたこと、できなかったこと
- ・今後のメンターの継続意向や関わり方についての意見

5. 発見・成果と課題・改善

5.1 発見・成果

モデルを実際に行うことによって発見したことや、達成した成果についてまとめる

- 実証校・教育委員会他との連携体制の構築
- メンター育成
- 講座内容

5.2 課題・改善

モデルを実際に行うことによって明らかになった課題、より効果的なモデルの実践の観点から課題をどのように改善したか(または、今後改善しようと考えているか)についてまとめる

- 実証校・教育委員会他との連携体制の構築
- メンター育成
- 講座内容

6. 実証モデルの普及に向けて

6.1 モデルの横展開の可能性

実証モデルの要素において他の教育委員会・学校が利活用できる点についてまとめる

- メンター育成
- 講座の構成、教材
- 普及のための活動

その他、実証モデルの普及において事業者が独自に取り組んでいる(または、今後取り組む計画がある)活動についてもまとめる

6.2 モデルの実施コスト

実証校の通信・端末環境を記載するとともに、機材・消耗品・交通費など実費ベースで、児童生徒1人当たりの実施コストを試算

7. 参考資料

作成したテキスト・プリント、メンター・児童生徒の募集文書、家庭へのお知らせ、アンケート結果、メンター・児童生徒の感想等を添付。

全体を通じ、写真、図表を積極的に用いる、専門用語には解説を付す等、読者の視点からわかりやすい内容となるよう留意する。

以上